

妊産婦がとらえる「お産」の実態調査

産科分娩部：茅野 郁子

1. はじめに

現在、産婦主体のお産がさげばれているがこれは大切なことだと思う。昨年は母親から伝えられ学び育てる母性について研究し分娩後に妊産婦とゆっくり関わることの大切さを感じた。そこで今回妊産婦と関わる中で「お産」についてどのようにとらえているのか、分娩後どのように感じどう伝えていきたいかを聞くことができた。また未婚女性はお産をどのようにとらえているのかを合わせて調査したので今後私達が保健指導していくうえで役立てたいと思い研究したのでここに報告する。

2. 研究目的

- (1)妊産婦が「お産」についてどのようにきき、どのようなイメージをもったかを知る。
- (2)分娩後その「お産」をどのように感じたかの実態を知る。
- (3)未婚女性のとらえる「お産」の実態を知る。

3. 研究方法

期間：平成5年8月～9月

対象：当科で分娩した妊産婦50名（初産婦27名・経産婦23名）

未婚女性137名（信州大学医療技術短期大学部1年生）

方法：妊産婦へは面接方式によりアンケート調査

- ①「お産」について誰からどのようにきいているか。
- ②「お産」に対するイメージをどうもったか。
- ③お産後どう思ったか。
- ④誰かに伝えるとしたらどのように伝えたいか。

未婚女性の「お産」に対する知識やイメージの実態をアンケート調査。

4. 研究結果

(1)妊産婦に対するアンケート調査結果

- ①「お産」について誰からどのようにきいているかについて

初産婦については22名が友人からと答えている。(図1) 内容としては「痛くて大変だった」「難産で時間がかかった」「苦しいけど産んでしまえば忘れる」「何とかなるもの」等の話をきいている。母からという人も11名いたが大体は「忘れてしまった」というものだった。経産婦については人からの話よりも自分の前回の経過が思い出されている。

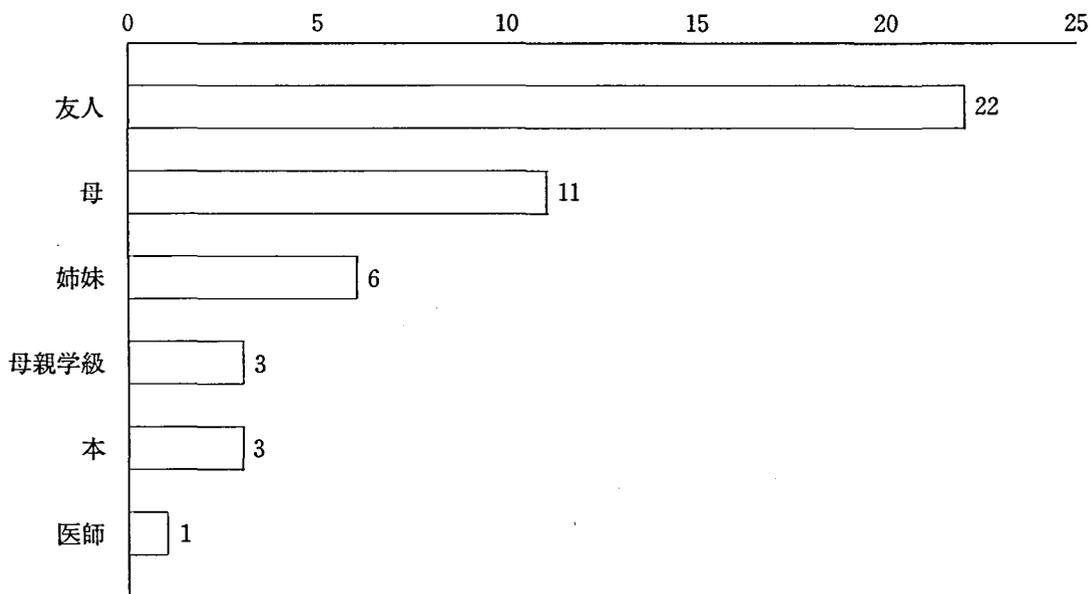


図1. 初産婦が「お産」に対する知識を得た対象（複数回答）

②「お産」に対するイメージをどうもったかについて（表1）

分娩に対して「こわい」「不安」「痛い」ととらえているものをマイナスイメージ、分娩に対して前向きにとらえているものをプラスイメージ、「自然のもの」というどちらともいえないイメージに分類した。マイナスイメージとしてとらえているものには23名おり「痛みに耐えられるか不安」「こわくて苦しいもの」がほとんどだった。プラスイメージとしてとらえているものには16名おり「痛みをのりこえれば赤ちゃんに会える」「赤ちゃんが産まれることの方が楽しみ」「感動するもの」と答えている。どちらともいえないイメージとしてとらえている人は「自然のことだから何とかなる」「誰でも産めるもの」と答えている。

表1 分娩に対して抱いていたイメージ

「こわい」「不安」「痛い」というマイナスイメージ……………	23人
「赤ちゃんへの期待」「分娩への好奇心」というプラスイメージ ……	16人
「自然りものだから」というどちらともいえないイメージ……………	11人

③お産後どう思ったかについて（表2）

お産してよかったものをプラス感情、「もう嫌だ」「つらかった」というものをマイナス感情、「何だかよくわからなかった」というものをどちらともいえない感情とし分類した。プラス感情をもったものには24名おり「自分で産めた」という満足感が一番多くきかれた。その他に「感動的だった」「思ったより楽だった」がある。マイナス感情をもったものには18名おり「もう少しスムーズに産まれると思っていた」「思い通りに進まなかった」「想像以上に痛

かった』等の言葉がきかれた。どちらともいえない感情としては『何が何だかわからないうちに産まれた』『あつというまに産まれよくわからなかった』と答えている。

表2 分娩を終えて感じたこと

「感動した」「割と楽だった」「満足した」というプラス感情	24人
「もう嫌だ」「つらかった」「不安だった」というマイナス感情	18人
「何だかよくわからない」というどちらともいえない感情	8人

④「お産」を誰かに伝えるとしたらどのように伝えていきたいかについて(表3)

「痛いけど産まれれば痛みは忘れてしまう」「感動的なもの」「女性だからこそ是非経験してほしい」等答えている。

表3 「お産」をどのように伝えていきたいか

痛いけど産まれれば痛みは忘れてしまう	24人
感動的なもの	9人
女性だからこそ是非経験してほしい	6人
赤ちゃんも一緒にがんばっているからがんばれる	4人
その他	7人

(2)未婚女性の「お産」に関するアンケート調査結果

未婚女性の分娩に対する知識は96名(70.1%)の人があると答えている。(図1)知識を得たものとしてはTVが50名と一番多く次いで母の39名,他に教師,雑誌,姉妹,友人となっている。(図2)分娩に対する知識がないと答えた者の37名(90.2%)が知識が欲しいと答えている。(図3)

未婚女性の「お産」に関する調査：1

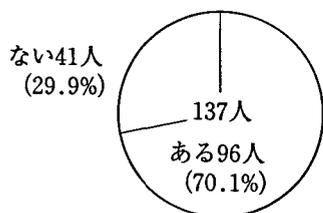


図1. 分娩に対する知識の有無

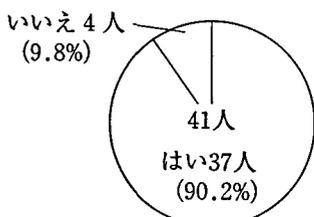


図3. 知識がほしい

(分娩に対する知識がないと答えた者)

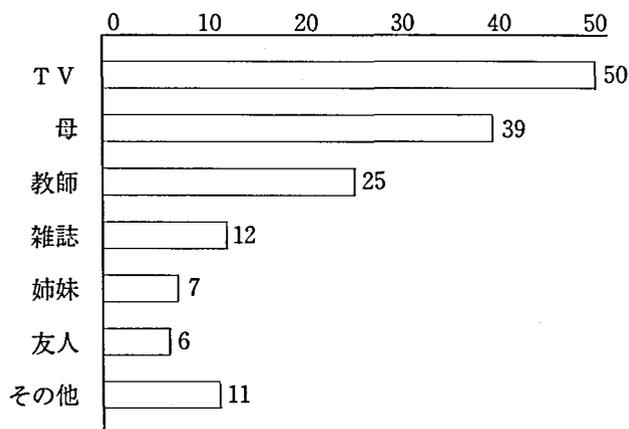


図2. 知識を得た対象(複数回答)

- 1) 分娩に対する知識のある者は70.1%あり, TVや雑誌などのマスメディアによるものが多い
- 2) 知識のない者のうち90.2%が知識を得たいと思っている

未婚女性の「お産」に関する調査：2

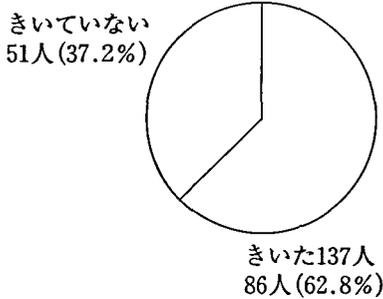


図4. 出産時の様子を聞いたことがある

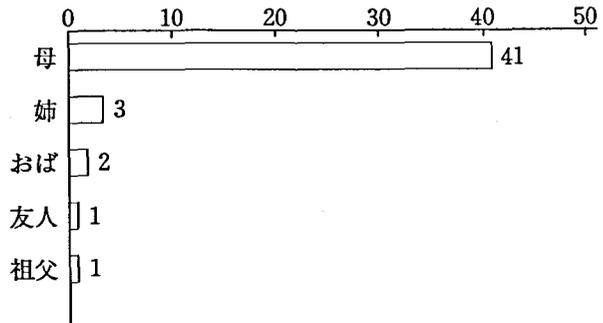


図5. 出生時の様子を話してくれた人

- 1) 自分または誰かの出生時の様子については過半数の者が聞いたことがある
- 2) その様子を話してくれたのは、母親がほとんどであった

自分もしくは誰かの出生時の様子については86名 (62.8%) の人がきいたことがあると答えている。(図4) その様子を話してくれた人は母が41名と断然に多く他には姉、叔母、友人があり中には祖父と答えた人もいた。(図5) 話の内容としては『難産で大変だった』『骨盤が割れるほど叫びたいほど痛かった』というものが多かった。今まで出生時の様子をきいたことのない人も42名 (82.4%) がききたいと答えている。(図6) 話して欲しい人の対象としては母が多く友人と答えた人もいた。(図7) 出生時の様子をききたくない人に対し、ききたくない理由については『面倒くさい、興味がない』『知りたいと思わない』『恥ずかしい』があり中には『分娩に対して恐怖があり、自分も子供を産みたくないと思っているから』という人もいた。(表4)

図4～7

未婚女性の「お産」に関する調査：3

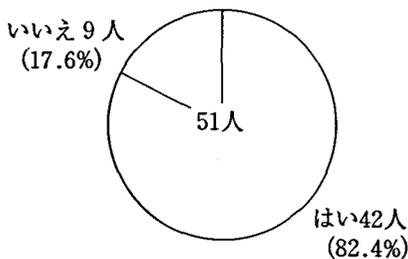


図6. 出生時の様子を聞いてみたいか (今まで聞いたことのない人)

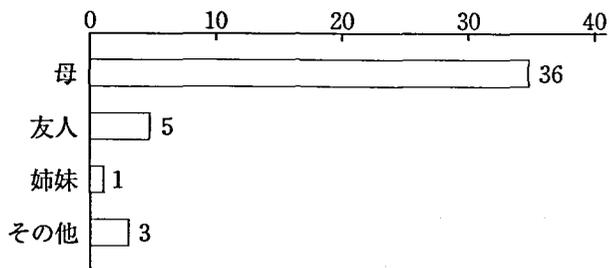


図7. はいと答えた人は誰から聞きたいか

表4 いいえと答えた人はなぜ聞きたくないのか

面倒くさい・どうでもよい・興味ない	3
知りたいと思わない	4
恥ずかしい	1
分娩に対して恐怖があり、自分も子供を産みたくないと思っているから	1

5. 考 察

(1) 妊産婦に対するアンケート調査について

妊産婦はお産についての情報をマスメディアが氾濫しているにも拘らず人伝に知識を得ようとしている。特に身近で最近お産した人に聞きたいという思いが感じられる。やはり「お産」については本や雑誌の文字からの情報よりも人からの言葉で具体的に聞きたいようである。確かに内面的感情は人伝のほうが伝わりやすいと思われる。しかし「うれしい」「感動的なもの」というような内面的感情はあまり伝えられていないようだ。

その話からイメージする「お産」は、「こわい」「痛い」「不安」というようなマイナスイメージをもつ人が多くなってしまおうと考えられる。やはり経験したことのないものに対する不安や痛みに対する恐怖などもうかがえる。しかしプラスイメージをもつ妊産婦には痛みよりも赤ちゃんが産まれることへの楽しみや赤ちゃんに対する期待があるようだ。

分娩を終えての感想は、お産してよかったというプラス感情をもった人が多く痛みはつらかったものの自分なりに満足したものとしてとらえているようだ。これは赤ちゃんに会えた喜びと共に自分で産めたという満足感からきているものと思われる。この気持ちがマイナスイメージをプラス感情へ変えていったのではないだろうか。また反対に「もう嫌だ」というようなマイナス感情をもった人は自分のイメージしていたものと現実の分娩経過とのギャップが生じたためと思われる。経過が早く夢中になってしまい何の感情ももてずに終わってしまった人に対しても助産婦が妊産婦と共にお産を振り返り働きかけることによって忘れていたり気付かなかった内面的感情を伝えられるきっかけとなるということを再認識した。

どの感情をもった妊産婦でもほとんどの人が「お産」を伝えるときマイナスイメージを与えないように話していきたいと思っている。しかし現実には妊産婦はマイナスイメージをもってしまいう話を聞いている。このことから本当に伝えたいことは何かを考える機会を与えていく必要があると思われる。このような関わりから妊産婦達の意識の中にある「産ませてもらえる」という考えから「自分で産む」という主体的なものに変えていけるのではないかと。

(2) 未婚女性の「お産」に関するアンケート調査について

未婚女性の過半数以上が分娩に対する知識があるものの人伝よりもTVや本などのマスメディアから得ていることが多くお産を正しく理解できているとはあまり思えない。また一番伝えてほしい母からという人が少ないのは残念なことではあるし、話されている内容はマイナスイメージが多く、お産を素晴らしいものとして伝えられているとは思えない。未婚女性はお産に対する興味は充分あるので今後正しい知識が伝えられる何等かの機会がもてればよいのではないだろうか。

6. まとめ

今回の調査を通して妊産婦とそれぞれにイメージする「いいお産」というものがある。お産がそのイメージと一致した場合満足したお産といえることがわかった。

未婚女性においてもお産に対する興味は充分にあるものの人伝よりも本やTVのようなマスメディアから得る知識が多いということがわかった。

今後はそれぞれの妊産婦がもっている不安に対し対応する場がもて正しい知識が伝えられるようにしたいと思う。そこからその人自身が描く「いいお産」というものを確立させ、「子供を産んでよかった。そして自分の子供にもお産をして欲しい」と思えるような満足のできる自立したお産となるよう援助していければと思う。

私達もお産の学級にて専門的知識と共に助産した中で得た経験やお母さん達の言葉が十分に伝えられるようにしていきたいと思う。また、助産した妊産婦とお産についてどうだったかということ振り返りお産を感動した素晴らしいものとして伝えられるように関わっていききたいと思う。

今回の未婚女性へのアンケートは18歳の人に調査したが分娩自体があまり身近なものでない年齢であったので調査対象としては不適當であったとも考えられる。そこで分娩についてももう少し身近に考えられる結婚を控えた女性に今後アンケートできたらよいのではないかと思う。

7. 参考文献

きくち さかえ：お産がゆく ―小産時代のこだわりマタニティ 第一版，健康双書，1992

吉村 正：お産で自然でなくちゃね

― ある産科医の真実の提言 第一版，健康双書，1992